特集

一日の計は朝礼にあり

取材・清水　高
山田清志
関根利子

「気を付けーっ」「礼！」で始まる朝礼は、気持ちが引き締まりすがすがしい。近年、朝礼がある企業は少なくなったものの、その有効性は工夫次第で向上させることができる。そこで今号では、経営理念の定着化や社員の表現力向上などに効果的な事例を取材した。

業績回復

経営理念の定着で減益から増益へ

飯田工業薬品

静岡・富士市

▲朝8時20分から始まる環境整備

飯田社長が毎年つくっている「経営計画書」の中の1ページを読む当番

「朝礼のやり方次第で社員がこんなに変わるのか、と驚いています」と話す飯田悦郎社長

豊富な地下水を利用した製紙業がさかんな富士市。その地に創業して約100年の歴史を持つ飯田工業薬品は、製紙用薬剤や成型材料用プラスチック、一般工業化学品などを扱う専門商社である。安定した需要により堅実な経営を続けてきたが、主要取引先である製紙産業の減少に伴って売り上げが減少。経営改革の必要性を迫られた。その際、創業後初めて経営理念を掲げた同社が、それを社員全員に浸透させる目的で導入したのが朝礼だった。

全体朝礼とチーム朝礼を実施

富士山を一望できる社屋の4階に、トレーニングルームがある。朝8時20分。エアロバイクやランニングマシンなどが置かれたスペースに社員全員が集合し、営々と作業をしている。何をしているかというと、窓に掛けた縦型ブラインドの羽根を外し、1枚1枚丁寧にふき掃除をしているのだ。仕事とは関係のないおしゃべりをしながら、和やかな雰囲気の中で作業は進む。10分ほどたつと手を止め、全員が仕事場に戻っていく。それから始まるのが、朝礼である。

同社の朝礼は、月曜日に全体朝礼、火～金曜日がチーム朝礼という形式を取っている。

全体朝礼では、まず全社員で経営理念を唱和する。次に、当番が行動指針の中から一つを取り上げ、それに対して感じていること、仕事をする上で心掛けていることなどを自分の言葉で発表していく。

また、チーム朝礼では部署ごとに輪になり、経営理念を唱和した後、その日の方針を確認する。社員は社長が作成した手帳サイズの経営計画書を各々で持っていて、そこに書かれている方針を読み上げるのだ。

例えば、1月11日は「基本方針」、翌12日は「お客様に関する方針」、というように毎日異なる方針が書かれている。それをその日の当番が読みあげて、実践できていないこと